

サグラダ・ファミリア敷地内に造られた学校 地域や職人たちを大切にしたガウディ

東京新聞 2023年6月21日 配信

生涯をサグラダ・ファミリア聖堂の建設にささげたガウディは、人付き合いから遠ざかり、気難しい人だったともいわれる。だが「社会と断絶していたわけではない」と聖堂の文化部長マルタ・オジェット(48)は語る。

ガウディは地域や職人たちを大切にした。敷地内に職人や地域の子どものための学校を造った。「降誕の正面」の彫刻のモデルは近所の人々だ。彼らの顔や体、家畜のロバまで石こうで型に取った。オジェットは「ガウディは権威のためではなく、貧しい庶民のために聖堂を造っていた」と話す。友人の叔父も彫刻のモデルになったという聖堂の会長代理エステベ・キャンパス(74)は子どもの時、毎年学校で建設継続の寄付金集めをした。1992年のバルセロナ五輪を機に観光客が増加し、今でこそ資金面で潤沢になったが、建設開始当初から資金難の時代が長く続いた。キャンパスは「地域が皆で建設を支えてきた。今も政府から一銭もお金をもらっていないのが誇りだ」という。

45年間、屈強な職人たちとともに聖堂の石を彫り続けてきた彫刻家外尾悦郎(70)は、ガウディの時代から作業事故の死者が一人も出ていないことに着目する。「ガウディは職人たちに『希望』という報酬を与えたからだ」という。外尾は、かつて社会的地位の低かった職人たちが、聖堂を建てる仕事帰りにガウディの造った学校で学ぶわが子を迎えに行く喜びを想像する。ガウディは職人を理解し、その道のエリートたれと鼓舞した。「希望が意欲を与え、カッとなることを抑えた。それと無事故は無縁ではない」と話し、「希望を与えられる雇い主は社員を伸ばし、会社を伸ばす」と現代にも通じる姿勢を指摘する。

そして、ガウディは彼を生涯支えたパトロン、エウゼビ・グエルとともに「人間を高めるという理想を持っていた」と外尾は語る。オジェットは、ガウディが残した学校を今も活用し、子どもやお年寄りのための社会教育プログラムを手がける。「ガウディがしたように、地域の人々とつながり続けたい」と願っている。

(敬称略)



「ガウディは地域の人々とのつながりを大切にしたい」と語るサグラダ・ファミリア文化部長のマルタ・オジェット



ガウディはサグラダ・ファミリアの近所の人々を彫刻のモデルに使った。ロバまで石こうに取ったという



ガウディが職人の子どもたちのためにサグラダ・ファミリア内に建てた学校。今も教育プログラムに使われている

サグラダ・ファミリア 「未完」が終わる日は10年後？ 60年後？ それとも…

東京新聞 2023年6月22日 配信

1882年の着工から141年にわたり建設が続くサグラダ・ファミリア聖堂。一時はガウディ死後100年の2026年に完成予定とされたが、新型コロナウイルスは「未完の聖堂」の完成をさらに遅らせた。だからこそ2021年末、全体で2番目に高いマリアの塔が完成し、頂上の星が点灯した時は「新時代の到来を象徴するようだった。地域の人や職員が皆、感動の思いで見つめた」と、聖堂文化部長のマルタ・オジェット(48)は語る。現在、建設は全体のどこまで進んだのか。聖堂の運営を統括する総責任者チャビエル・マルチネス(54)は「全体の約70%」と率直に語る。141年で7割だと、もう60年かかるペースだが、コロナの危機を乗り切ったマルチネスは「最新技術で建設は加速しており、数10年もかからない」と断言。10年程度の可能性も示唆する。全体で最も高いメインタワーのイエスの塔は26年に完成予定。その後「栄光の正面」を手がけて全体で18本の塔と三つの正面がそろい、音と光の総合芸術の大聖堂となる予定だ。イエスの塔の内部デザインを担当する彫刻家の外尾悦郎(70)は「世界で唯一、イエスの魂の中に入れる教会になる」とその魅力を語る。ガウディの時代から変わらない信仰の中心としての役割に加え、2005年には降誕の正面や地下礼拝堂が世界遺産に登録。美術や建築、歴史、文化面でも世界的評価を受ける。マルチネスは「完成後は、現在の年間4000万～5000万ユーロ(約61億～76億円)の建設コストを多様な社会プロジェクトに充て、サグラダ・ファミリアの存在意義を広げたい」と夢を描く。国際的なイベントのほか、若者の失業や高齢者支援など地域の課題にも取り組みたいという。オジェットは「ガウディは世界中の人々がサグラダ・ファミリアを見に来るだろうと言った。日本からもぜひ訪れてほしい」と願う。

いよいよ「未完」の終わりが視野に入った。しかし9代目主任建築家のジョルディ・ファウリ(63)は「今は降誕の門を修復しており、おそらく今後も常にとどこかを修復し続ける」と話し、にやりと笑う。「真の『完成』は永遠にないだろう」(バルセロナで、加藤美喜、写真も)＝文中敬称略、連載終わり



聖堂の運営を統括する総責任者
チャビエル・マルチネス



バルセロナ市内で、南側から見たサグラダ・ファミリア。中央の建設中の塔が2026年完成予定のメインタワー「イエスの塔」